

氏名 中西幸三

学位の種類 医学博士

学位授与番号 乙第1001号

学位授与の日付 昭和53年12月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)学位論文題目 Studies on γ -Glutamyl Transpeptidase of Semen from the Medico-Legal Aspects精液の γ -Glutamyl Transpeptidase に関する法医学的研究Part 1 γ -Glutamyl Transpeptidase in Human Seminal Fluid1 ヒト精液の γ -Glutamyl TranspeptidasePart 2 γ -Glutamyl Transpeptidase in Human Seminal Stains2 ヒト精液斑の γ -Glutamyl Transpeptidase

論文審査委員 教授 水原舜爾 教授 大森弘之 教授 佐伯清美

学位論文内容の要旨

精液ならびに精液斑に関する法医学的研究はきわめて重要である。これらの検査法には顕微鏡的および化学的検査にわかれているが、実際上鏡検での精子検出は困難な場合が多く、かつ無精子液においては不可能である。著者は精液中の γ -glutamyl transpeptidase を KULHÁNEK 変法により測定し、精液の酵素化学的検査法としての有用性について検討した。その結果、副睾丸および前立腺に由来すると考えられる精液中の γ -glutamyl transpeptidase は各種体液との比較においてきわめて高い活性値を有し、また精液および精液斑に関する検索では、酸性フォスファターゼよりすぐれた酵素安定性を有することが証明された。

以上、精液中の γ -glutamyl transpeptidase の測定は法医学上きわめて有用な精液検査法の一つとなることを明らかにした。しかも本法は加温、腐敗等の条件下では酸性フォスファターゼ測定に比較してすぐれた方法と思考した。

論文審査の結果の要旨

本研究は精液及び精液斑が γ -glutamyl- β -naphthylamide の分解能が強いことを証明し、この性質が法医学的に精液斑検出の補助手段として利用し得ることを報告したもので、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。